

## 令和5年度大型再処理施設放射能影響調査事業評価結果

### 1 活動指標及び活動実績

活動指標	当初見込み	活動実績
実施機関の研究者が発表した論文や実施機関が公表した報告書、データの件数	46 件	47 件
県民に対して行った、本事業やその成果を周知するために実施した講演やイベントの開催数	40 回	63 回
県民に対して行った、本事業やその成果に関する理解醸成活動（講演、イベント）への参加者数	2,000 人	3,337 人

### 2 成果目標及び成果実績

成果目標	成果指標	目標値	成果実績	達成度
実施機関が行う研究活動について、研究成果の創出と国内外の研究機関との連携を強化し、実施機関の国内外での評価の向上を図る。	実施機関の研究者が国内の行政機関や国際機関の実施する会議等に委員として参画した件数	41 件	80 件	195.1%
理解醸成活動として、研究成果や調査結果を分かりやすく発信し、地域住民の信頼の獲得を図る。	理解醸成活動の参加者に対して実施するアンケート調査において、実施機関や、その発信する情報への信頼について質問し、好意的な回答をした参加者の割合	85%	90%	105.9%
大型再処理施設が設置されている地方自治体が、施設から排出される放射性物質による影響に関する詳細かつ継続的な調査を行い、地域住民の安全・安心の確保を図る。	地域を代表する地域共創委員会の構成員に対して実施するアンケート調査において、本事業の安全・安心への貢献を質問し、10段階で評価された平均点	8	7	87.5%

### 3 大型再処理施設放射能影響調査事業企画評価委員会評価結果

調査事業名	総合評価
排出放射性物質による環境影響に関する調査（海域部分を除く） （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	A
[委員長とりまとめコメント] ながいもへの移行調査、トリチウムやセシウムの土壌への移行調査、ルテニウムの濃度の調査など着実に成果を挙げている。地域特性を踏まえた研究成果、農水産物への移行・残留性調査内容は、地域住民が特に興味を持つ分野であるため、地域に対する積極的な理解醸成活動をお願いしたい。 ヒラメへのトリチウム移行に関する調査では、成果を学会誌に論文発表し、新聞に掲載される等、高い評価を得た。これらの研究成果を論文や国際会議で積極的に外部に公表している点が評価できる。	

調査事業名	総合評価
排出放射性物質による環境影響に関する調査（海域部分） （公益財団法人日本海洋科学振興財団委託事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>固有モデルの評価と改良に取り組むとともにその信頼性向上のための海洋観測について様々な取り組みを進めていて、着実に成果を挙げている。</p> <p>海洋観測により得られた貴重なデータは、関係研究機関等や住民に対しても提供され、また、漁業者は海洋観測データを利用していることから研究の理解醸成にもつながっている。今後は、学会発表や論文として、外部に成果を公表することにも注力をお願いしたい。</p>	
調査事業名	総合評価
低線量率放射線による生物影響に関する調査 （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>低線量放射線の生物影響は世界的に注目されている研究であり、マウスを用いた様々な環境での生体や細胞、血液、生理機能等様々な研究成果が積み重ねられており、論文発表等を通じた成果の発信についても、着実に進められている。今後さらなる研究成果を期待する。地域住民の理解醸成に向け、わかりやすい広報をお願いしたい。</p>	
調査事業名	総合評価
トリチウムの影響に関する調査 （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>トリチウムは、東電HD福島第一原子力発電所の海洋放出以来、現在世界的に注目が集まっている。この状況で、共創センターが発行したトリチウムQ&amp;Aのベースとなる情報を提供したことなどは、住民及び社会的理解醸成につながっており、評価できる。年齢別臓器レベルの線量評価とマウスを用いたOBTの体内残留とその染色体影響についての成果を着実に積み重ねている。</p>	
調査事業名	総合評価
小児がん等がん調査 （青森県健康福祉部所管事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>再処理工場操業前からの調査結果が毎年積み重ねられ、分析・評価されていることは、再処理工場の操業を控え非常に重要なデータであり、着実に成果を上げている。情報発信についても、インターネットやパンフレット等にて調査結果がわかりやすく公表されており、引き続き積極的な情報発信をお願いしたい。</p>	

調査事業名	総合評価
理解醸成活動 (公益財団法人環境科学技術研究所委託事業)	S
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>今年度は注目を集めているトリチウムに関する活動に重点化し、特に、研究成果報告会でのトリチウムに関する報告と質疑対応、地域と連携したトリチウムQ&amp;Aの作成、トリチウムに関するプレスリリースと新聞掲載は特出される。また、小学校から大学までの広い範囲での教育活動や多岐に渡った情報発信を行った点が評価できる。</p> <p>今後も、継続し成果を地域に対してもわかりやすく広報し、研究所に対する地域住民の信頼感の向上、相互の理解を深めることを期待するとともに、福島のF-REIとの協力も検討してほしい。</p>	

(参 考)

評価の視点	評価の尺度
(1) 優れた研究成果が上がっているか。 (2) 地域の期待に応えているか。 (3) 社会的ニーズに合致した成果が挙げられているか。	S：想定を上回る優れた成果を上げている。 A：基本計画及び実施計画に基づき着実に成果を上げている。 B：基本計画及び実施計画通りに成果を上げているとは言えない面もあるが、今後の取組みにより基本計画及び実施計画に基づく成果を達成し得ると考えられる。 C：基本計画及び実施計画に基づき成果を上げるためには、実施方法等の大幅な見直しが必要である。